

2025 年実施 ESAT-J の問題点

2026/01/07

大内裕和

武蔵大学教授

「入試改革を考える会」代表

1. 2025 年 12 月 14 日の追・再試験について

2025 年 12 月 14 日の受験者数 約 2400 人（申込者約 2700 人）

2024 年 12 月 14 日の受験者数 約 900 人（申込者約 1200 人）

2025 年の追・再試験の受験者数は 2024 年の約 2.67 倍と急増

2025 年 12 月 14 日の追・再試験の受験者数増加について、東京都教育委員会は説明するべきである。その際には追・再試験の受験者の内訳を明らかにすべきである。

1) 2024 年の ESAT-J に当日の運営ミスや機器の不具合などで 255 人（2023 年度の 4 倍以上）が再試験対象となる。東京都教育委員会は受験生と保護者に説明、謝罪を行った。

今年は増加したのか否か？

2) 2025 年 5 月には「事業者と緊密に連携し、検証・改善を図る」などの再発防止策を公表した。担当者は「マニュアルの改善や研修の一層の充実も図っている」と説明した。

上記の改善策は改善につながったのか？

3) 増加要因の一つはインフルエンザの流行にあった可能性がある。インフルエンザの流行による受験生の増加は運営側のミスではないが、11 月後半という ESAT-J の時期設定が適切なのか？という疑問がある。今回、この時期では不適切だという声が、受験生・保護者・教育関係者から届いている。

2. 難聴学級の生徒に対する運営側のミス

（事例 1）特別措置を申請し、放送原稿を見ながら解答する形式にした生徒が、流れた音声と配布された冊子の内容が違っていた。間違った冊子が配布されたのは、用意されていた冊子が間違っていたためで、事業者側のミス。当日、再試験といわれた子もいれば、都教委に問い合わせたところ「11 月 23 日の結果をそのまま使うことも、12 月 14 日の再試験を受けることもできる」といわれた保護者もいる。

（事例 2）難聴学級生徒 配付された問題用紙のスクリプトが実際の問題と違ったものだった。試験後に録音はされていたが、（スクリプトが違っていたので）再試験になると伝えられた。

（事例 3）聴覚障害の子で、聴覚障害用の冊子を渡すところ、別の冊子を渡し、再試験とな

ったそうです。

- 1) 聴覚障害生徒保護者に、間違った問題用紙で受験した ESAT-J 得点を利用しても、再試験を受けても良いとの回答。間違った問題用紙で受験した生徒の ESAT-J 得点を都立高校入試での合否判定に使用することは明確な誤り。ESAT-J の信頼性を破壊する行為。
- 2) 難聴学級の生徒について複数のトラブルが発生しているが、2025 年 11 月 23 日の試験後に、東京都教育委員会からの発表が行われていない。難聴学級の生徒という「配慮の必要な生徒」に対する運営側のミスであり、それは難聴学級の生徒たちに大きな負担と苦痛を与えるものもある。事態は難聴学級の生徒たちの「人権」に関わる問題であり、極めて重大である。トラブルを公表しなかったのはなぜか？隠蔽していたとすれば重大な責任がある。
- 3) ESAT-J の試験運営が難聴学級の生徒に配慮を欠いたものであったとすれば、これは「差別」をともなう行為を東京都教育委員会が行ったことになる。東京都教育委員会は、難聴学級の生徒に対するトラブルについて、すべての情報を公開し、その原因を説明する責任がある。
- 4) 2025 年 12 月 24 日の ESAT-J 住民訴訟の証人尋問で、2022 年 8 月の覚書の変更、9 月の協定締結について。ベネッセから東京都への事業主体の変更は、「より主体的に東京都が関わるため」と瀧沢佳宏・東京都教育庁教育監（ESAT-J 導入時・事業推進部長）は回答した。裁判官が「プレテスト実施時よりも ESAT-J の本試験にあたり東京都がより主体的に関わる理由」を尋ねたのに対して瀧沢佳宏氏は、「配慮の必要のある生徒」への対応を最も大きな理由として挙げていた。

しかし、今回の試験では「配慮の必要のある生徒」に対する運営側のミスが起きており、瀧沢佳宏氏の発言とは矛盾する。ESAT-J 住民訴訟は第 1 回目の ESAT-J についてのものだが、「配慮の必要のある生徒」に対する方針がその後変わったとは考えにくい。

証人尋問での発言は「偽証罪」に問われるほど重いものである。瀧沢佳宏氏（東京都教育庁教育監）は、今回の難聴学級の生徒に対するトラブルについて発言する責任があると考える。メディアの皆さんには、証人尋問での発言のことも含めて、瀧沢佳宏氏にぜひ取材していただきたい。

3. 4 年連続の試験当日のミス、それに加えて難聴学級の生徒に対する運営側のミスの発覚。

今回の ESAT-J の都立高入試活用中止をすぐに決定すべきである。